

令和 4 年 1 0 月 6 日

中教審「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会  
「中間まとめ（案）」についての意見全国国公立幼稚園・こども園長会  
会長 箕輪 恵美○これからの教師に求められる資質能力について

- ・これからの未来を担う子どもたちに育むべきは、敷かれた線路の上を走る力ではなく、自ら荒野を開拓して自ら線路を敷いて自らの意思で走る力、であるはずです。そのような力を育むためには、「第 1 部 総論」「1 令和 3 年度答申で示された、『令和の日本型学校教育』を担う教師及び教職員集団の姿」にある「教師の姿」①②③や「教師集団の姿」をどの校種でも意識し、日々の教育活動の中で実践していくことが必要であると考えます。そのためには、これからの教師に求められる資質能力を教師一人一人が着実に身に付けることができるように、
  - ① 養成校の段階で「第 II 部 各論」「1 『令和の日本型学校教育』を担う教師に求められる資質能力」に記載されているような力の基礎となる内容を学ぶ
  - ② 現場に出てからは日々の実践や研修を通して磨きをかけるという積み重ねを長期的に計画的に行い、養成校から一貫してこれからの時代にふさわしい教師として必要な資質能力を育むことが必要である、と考えます。
- ・幼児期の教育では、教師は子供にとって重要な「人的環境」の一つであり、教師の立ち居振る舞いや物事の考え方が子供に与える影響が大きいことを自覚して子供の前に立っています。子供に「このようになってほしい」と願ったことを教師や教師集団が身をもって示していると、子供はその姿から影響を受けて学び取る力をもっており、子供が自ら学ぶ力を生かすことができます。教師が一方的に教えるだけではなく、子供が自ら学び取る力を生かす教師の在り方は「令和の日本型学校教育」の実現にもつながるものなので、「教師は子供にとって重要な人的環境の一つである」という心もちを教師として基本的に備える資質として重要視するとよいのではないのでしょうか。

○子供たちの「多様化」の捉え方 及び 体制強化の必要性について

- ・「第 1 部 総論」「2 子供たちの多様化と社会の変化」の「(2) 子供たちの多様化」では、特別な支援を要する子供や外国籍の子供及び複雑な家庭背景をもつ子供を念頭においた記述がなされていますが、「多様化＝特別な事情のある子供」と考えるだけではなく、「子供たち一人一人の持ち味や可能性はそれぞれ異なって当たり前」「一人一人異なる子供たち、それぞれの持ち味や特性を理解し、生かしていく」という視点で「多様」ということを捉える、という考え方もあるのではないのでしょうか。そのように考えることで、全ての子供たちが同じ到達点に達することに価値を見出すよりも、取り組む過程での試行錯誤やそれぞれに異なる着地点があることに価値を見出せるようになり、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現が図られる、と考えます。
- ・一方、要支援の子供は公立園では年々増加しており、今年度は全国の公立園で平均 1 割強の在籍があります。恐らく、その傾向は公立小中学校でも同様ではないか、と推察します。要支援児も含めた学級経営を進めていくためには、担任が一人で負担を抱え込むのではなく、正規教諭の加配により受け入れ体制を強化していく必要があるため、その必要性にも言及していただけるとありがたいと思います。

### ○教師不足を打開するために

- ・「第1部 総論」「2 子供たちの多様化と社会の変化」の「(5)『教師不足』の現状」は公立幼稚園でも同様です。幼稚園は元々、圧倒的に女性が多い職場なので、産休・育休の代替が必要な状況が他校種よりも多く起きますが、現在、特に年度途中からの代替を見付けることが困難で、園内のフリーの教諭が（場合によっては管理職が）代行せざるを得ない状況が生じています。代替教諭の安定的な確保のために、免許取得者の目に留まるような積極的な募集活動の展開、教員免許更新制度の下で免許を失効してしまった元免許所有者が申請により免許の再発行ができる仕組みがあること・その手続きを経て再度働くことができることを知ることができるよう広く周知することの必要性にも言及していただけるとありがたいと思います。
- ・免許取得者の学校・幼稚園への就職率の低下を踏まえると、「第II部 各論」「2 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成」の「(2) 優れた人材を確保できるような教員採用等の在り方」にあるように、民間企業の内定との兼ね合いを検討すべき時期であると考えます。また、幼稚園については、各自治体の保育士の募集が教員採用選考試験より早い時期に行われていることが多く、加えて各自治体から保育士採用の案内をしに養成校に出向いている、という話も聞きます。学校や幼稚園の教師は、今や待っていても受験者が来ない状況になりつつあるので、公立について各自治体の学校・幼稚園関係の部署が地元の養成校に積極的に案内をするような活動の展開が可能であるなら、具体例として盛り込んでいただくとよいのではないのでしょうか。
- ・近年、核家族化や高齢でも働き続ける方が増える中で、教師が育児を実家に頼れないことが増え、仕事と家庭を両立できずに離職する者が増えています。離職した教師がやがて復職できる状況になったときに正規教諭として復職できる道をつくる、というような具体策を教師不足の打開策例としてあげていただきたいと思います。

### ○免許取得者の学校・幼稚園への就職促進について

- ・近年、教員免許を取得しても学校現場以外に就職する割合が増えている傾向は幼稚園教諭免許を取得した者も同様です。最近では、保育士資格を同時に取得できる学校が増えていること、保育士不足解消のために各自治体や事業所が積極的に人材確保に動いていたことの影響もあり、幼稚園教諭を目指す学生は残念ながら減っており、受験者の倍率低下は、教員にふさわしい資質を持ち合わせている人材の確保が難しいことにつながっています。
- ・教育の質を維持・向上させるためには、教員にふさわしい資質を持ち合わせている人材の確保が必要不可欠です。今後、教育実習以外にも現場が積極的に見学者を受け入れ実際に身を置くことで教員の仕事に興味をもってもらう、教員養成の前段階である中学・高校のキャリア教育の中でも「教員という仕事の魅力」を伝えてもらえるように働き掛ける、というような取り組みを進め、子供の成長を支える教員という仕事にやりがいや魅力を感じ、子供のために力を尽くそうという志をもった人材が増えるために効果が見込める方策を「第II部 各論」「4 教委尿性大学・学部、教職大学院の在り方」の「(3) 教育委員会と大学との連携強化の促進」や「(5) 教員就職率の向上」に、さらに盛り込んでいただくとよいのではないのでしょうか。

### ○教員免許更新制の発展的解消とこれからの教員研修について

- ・このたび実施された教員免許更新制の発展的解消は、教員の時間的・金銭的な負担の軽減につながったと考えます。一方、教員免許更新を受講した教員からは「現場でキャリアを積んだ後に受講したことで、幼児期の教育の基礎基本を学び直せた」という声もありました。そのことを踏まえ、中堅教諭が受講する悉皆研修に、基礎基本を改めて学び直す内容を入れることがなされると、教員の資質向上につながると考えます。
- ・現在、教員は子供への指導以外にやるべきことが山積しているため、これからの研修はできるだけ内容を精査し、回数を増やさずとも必要なことが学べる工夫する必要があると思います。また、研修の内容によって対面とオンラインを適切に使い分ける、ということも実現すべき、と考えます。